

第1 調査概要

1 調査目的

東京都におけるギャンブル等依存症対策の一層の推進を図るため、都民のギャンブル等依存症に関する意識等を把握し、施策の充実の検討に資することを目的とする。

2 調査回答者

調査時点において、都内に住む満18歳以上の個人3,200人。

調査においては、性別・年代に偏りが出ないように回答を取得している。また、居住地域については、都内区市町村を7つのエリアに分け、各エリアの人口比から大きなずれがないように回答を取得している。エリアの区分については下記のとおり。

エリア	区市町村	人口比※
センター・コア・エリア	千代田区、中央区、港区、新宿区、文京区、台東区、墨田区、江東区、渋谷区、豊島区、荒川区	20.4%
区部東部・北部エリア	北区、板橋区、足立区、葛飾区、江戸川区	19.8%
区部西部・南部エリア	品川区、目黒区、大田区、世田谷区、中野区、杉並区、練馬区	29.0%
多摩東部エリア	武蔵野市、三鷹市、調布市、小金井市、小平市、東村山市、国分寺市、狛江市、清瀬市、東久留米市、西東京市	12.0%
多摩中央部北エリア	立川市、昭島市、福生市、東大和市、武蔵村山市、羽村市、瑞穂町	4.2%
多摩中央部南エリア	八王子市、府中市、町田市、日野市、国立市、多摩市、稲城市	12.7%
多摩西部・島しょエリア	青梅市、あきる野市、日の出町、檜原村、奥多摩町、大島町、利島村、新島村、神津島村、三宅村、御蔵島村、八丈町、青ヶ島村、小笠原村	1.8%

※令和4年4月1日時点 東京都内区市町村別人口比より作成

3 調査方法

アンケートモニターに対するインターネットアンケート

4 調査期間

令和4年7月5日（火曜日）～11日（月曜日）

5 用語の定義

(1) ギャンブル等

ギャンブル等依存症対策基本法（平成三十年法律第七十四号）では、「ギャンブル等」を「法律の定めるところにより行われる公営競技、ぱちんこ屋に係る遊技その他の射幸行為」と定義している。

(2) ギャンブル等依存症

ギャンブル等依存症対策基本法では、「ギャンブル等依存症」を「ギャンブル等にのめり込むことにより日常生活又は社会生活に支障が生じている状態」と定義している。

6 集計結果の注意点

- ・ 比率を出す際には小数点第2位以下の数値を四捨五入している。そのため、回答比率の合計が100.0%にならない場合がある。
- ・ 図表中の「0.0」は回答の比率が0.1未満であることを表し、「-」の場合は回答が皆無であることを表している。
- ・ 「複数回答」の記載がある図表は、一人が複数の選択肢を選択することが可能な設問のため、回答比率の合計が100.0%にならない場合がある。

第2 調査結果

1 回答者の属性

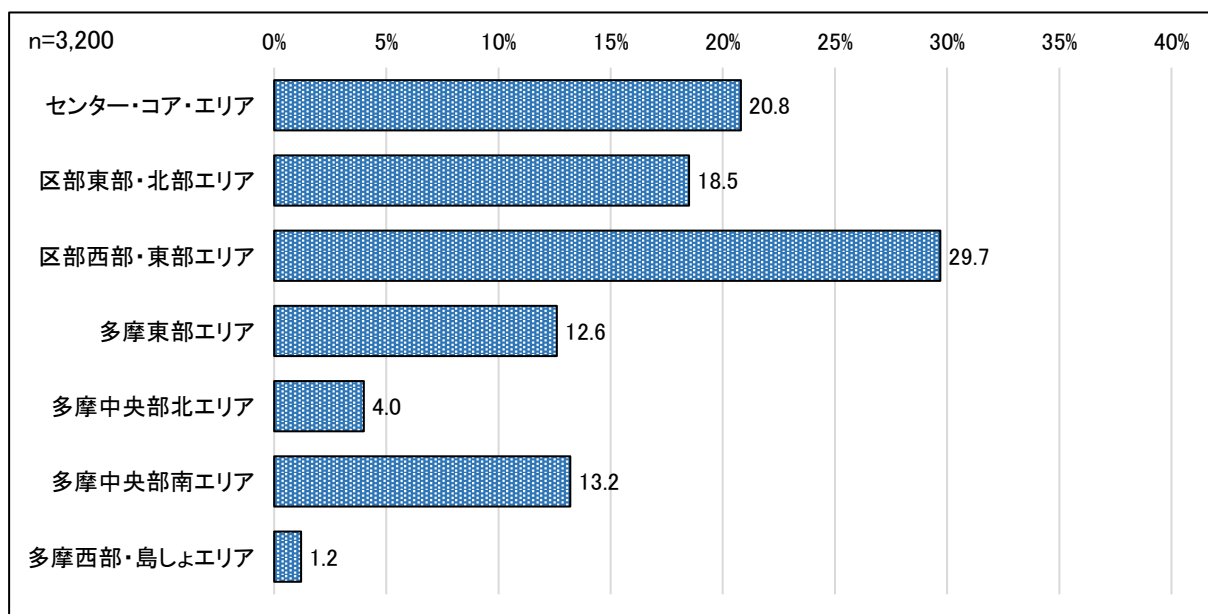
(1) 性別・年代

図表1. 性別・年代

		年代							
		全体	18歳・ 19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70歳 以上
性別	全体	3,200	103	519	519	516	515	514	514
	男性	1,592	50	257	257	257	257	257	257
	女性	1,592	50	257	257	257	257	257	257
	回答しない	16	3	5	5	2	1	-	-

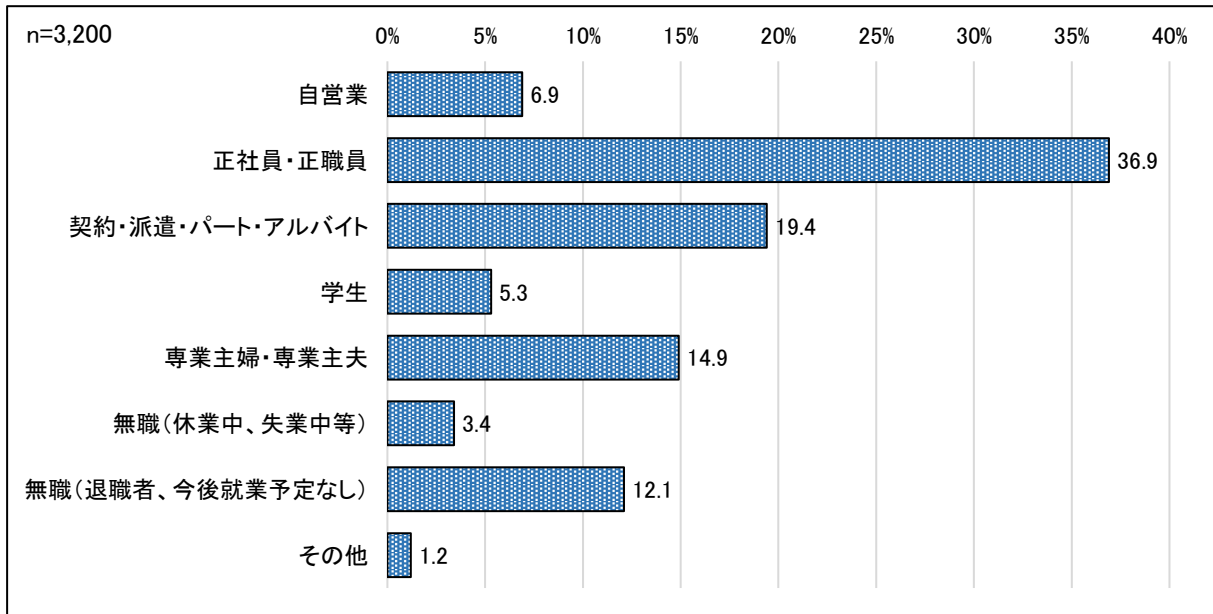
(2) 居住エリア

図表2. 居住エリア



(3) 職業

図表3. 職業



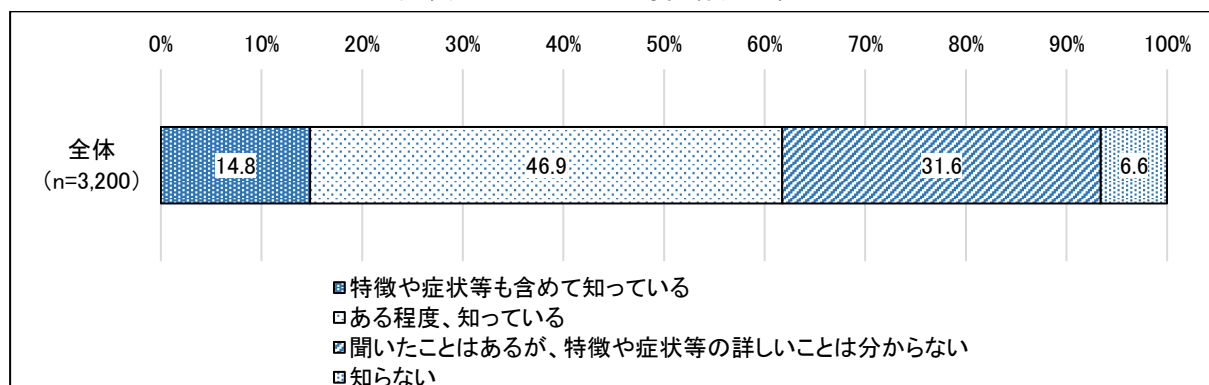
2 調査結果

(1) ギャンブル等依存症の認知

Q 4 ギャンブル等依存症を知っていますか。

ギャンブル等依存症の認知については、「特徴や症状等も含めて知っている」が14.8%、「ある程度、知っている」が46.9%、「聞いたことはあるが、特徴や症状等の詳しいことは分からない」が31.6%、「知らない」が6.6%であった。

図表4. ギャンブル等依存症の認知

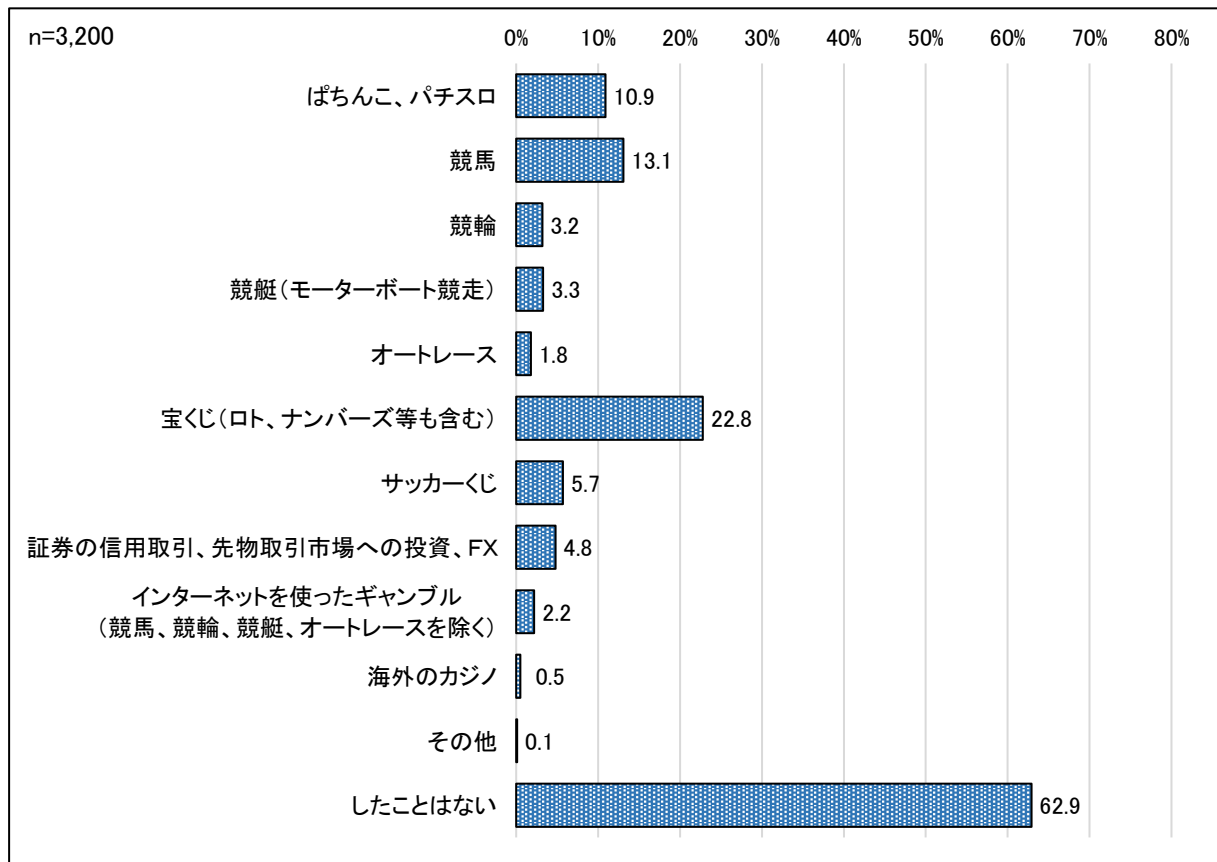


(2) ギャンブル等の経験

Q 5 次に挙げるギャンブル等を過去1年間にしたことがありますか。(いくつでも)

過去1年間に経験したギャンブル等は、「宝くじ(ロト、ナンバーズ等も含む)」が22.8%と最も高く、次いで「競馬」が13.1%、「ぱちんこ、パチスロ」が10.9%であった。また、「したことはない」は62.9%であった。

図表5. ギャンブル等の経験 (複数回答)



<その他の回答(抜粋)>

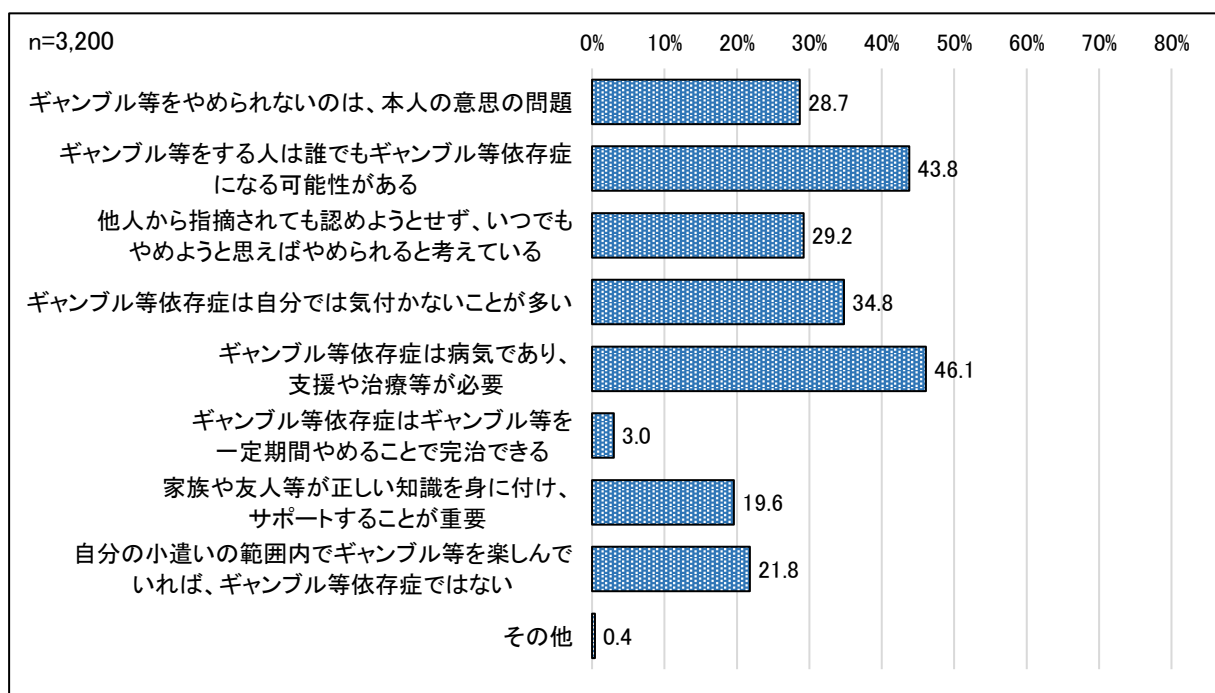
- ・麻雀
- ・暗号資産

(3) ギャンブル等依存症について知っていること・思い浮かぶこと

Q6 「ギャンブル等依存症」と聞いて知っていることや、思い浮かぶことを次の中から3つまで選んでください。

「ギャンブル等依存症」と聞いて知っていることや思い浮かぶことは、「ギャンブル等依存症は病気であり、支援や治療等が必要」が46.1%と最も高く、次いで「ギャンブル等をする人は誰でもギャンブル等依存症になる可能性がある」が43.8%、「ギャンブル等依存症は自分では気付かないことが多い」が34.8%であった。

図表6. 知っていること・思い浮かぶこと (複数回答/3つまで)



<その他の回答 (抜粋)>

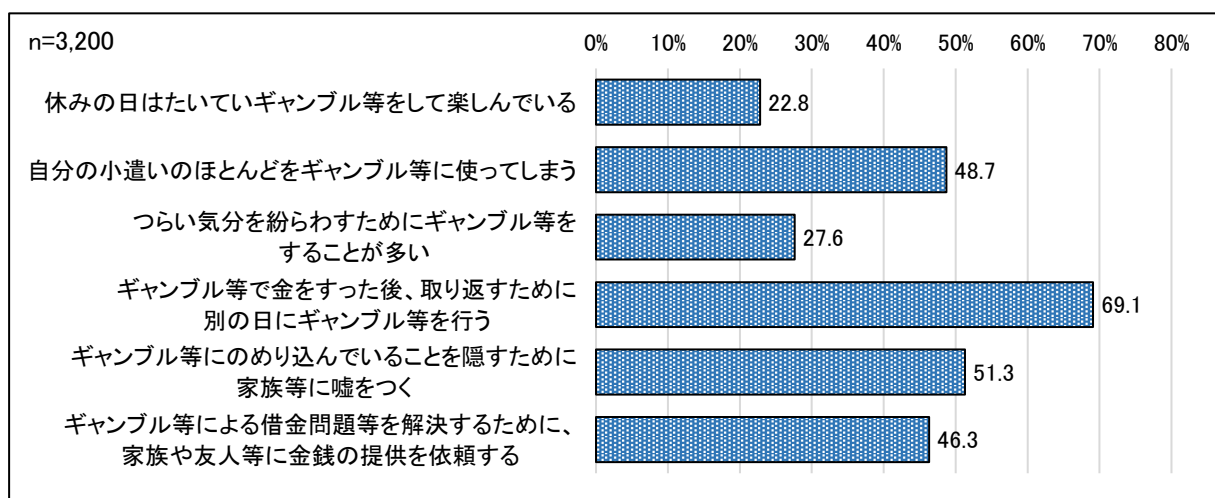
- ・初めて挑んだ時に良い結果が出てしまうと依存症になる可能性が高い。
- ・たくさんお金を持っていたらなりそう。

(4) ギャンブル等依存症の状態だと思ふもの

Q 7 ギャンブル等依存症の状態だと思ふものを次の中から 3 つまで選んでください。

ギャンブル等依存症の状態だと思ふものは、「ギャンブル等で金をすった後、取り返すために別の日にギャンブル等を行う」が 69.1%と最も高く、次いで「ギャンブル等にのめり込んでいることを隠すために家族等に嘘をつく」が 51.3%、「自分の小遣いのほとんどをギャンブル等に使ってしまう」が 48.7%であった。

図表7. ギャンブル等依存症の状態だと思ふもの（複数回答／3 つまで）

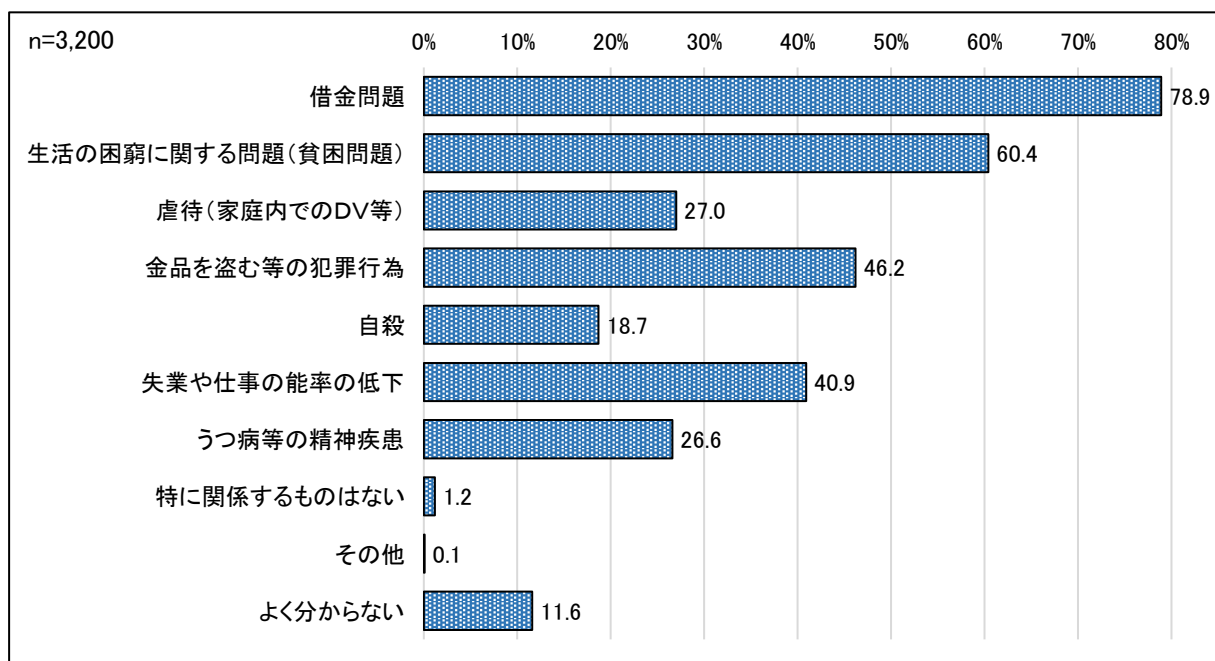


(5) ギャンブル等依存症に関連すると思われる問題等

Q 8 ギャンブル等依存症に関連すると思われる問題等を次の中から選んでください。(いくつでも)

ギャンブル等依存症に関連すると思われる問題等は、「借金問題」が78.9%と最も高く、次いで「生活の困窮に関する問題(貧困問題)」が60.4%、「金品を盗む等の犯罪行為」が46.2%であった。

図表8. ギャンブル等依存症に関連すると思われる問題等 (複数回答)



<その他の回答(抜粋)>

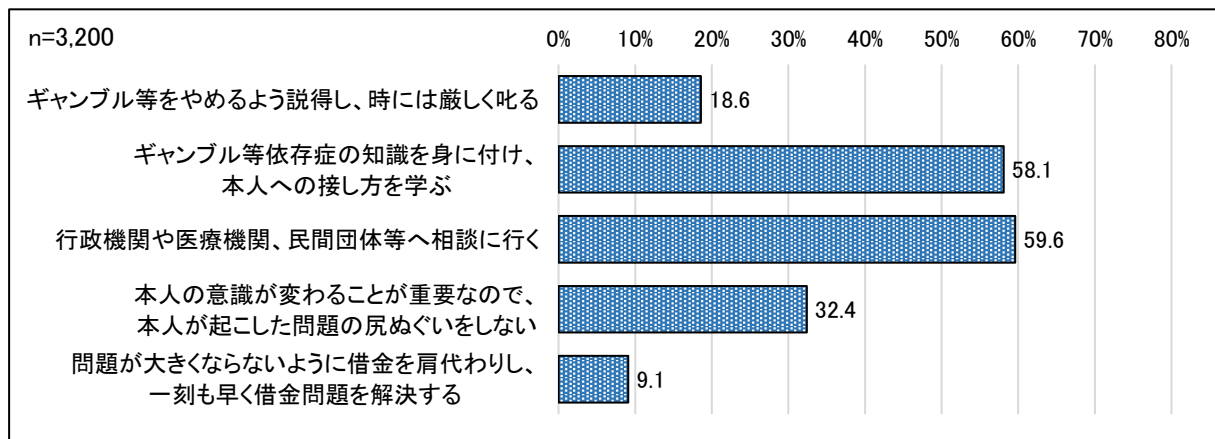
- ・自己管理の弱さ。
- ・アルコールなどの、他の依存症が併存。

(6) 家族や友人等がギャンブル等の問題を抱えていた場合の対応

Q 9 家族や友人等がギャンブル等の問題を抱えていた場合の対応として良いと思うものを次の中から選んでください。(いくつでも)

家族や友人等がギャンブル等の問題を抱えていた場合、良いと思う対応は、「行政機関や医療機関、民間団体等へ相談に行く」が 59.6%と最も高く、次いで「ギャンブル等依存症の知識を身に付け、本人への接し方を学ぶ」が 58.1%であった。

図表9. 家族や友人等がギャンブル等の問題を抱えていた場合の対応 (複数回答)

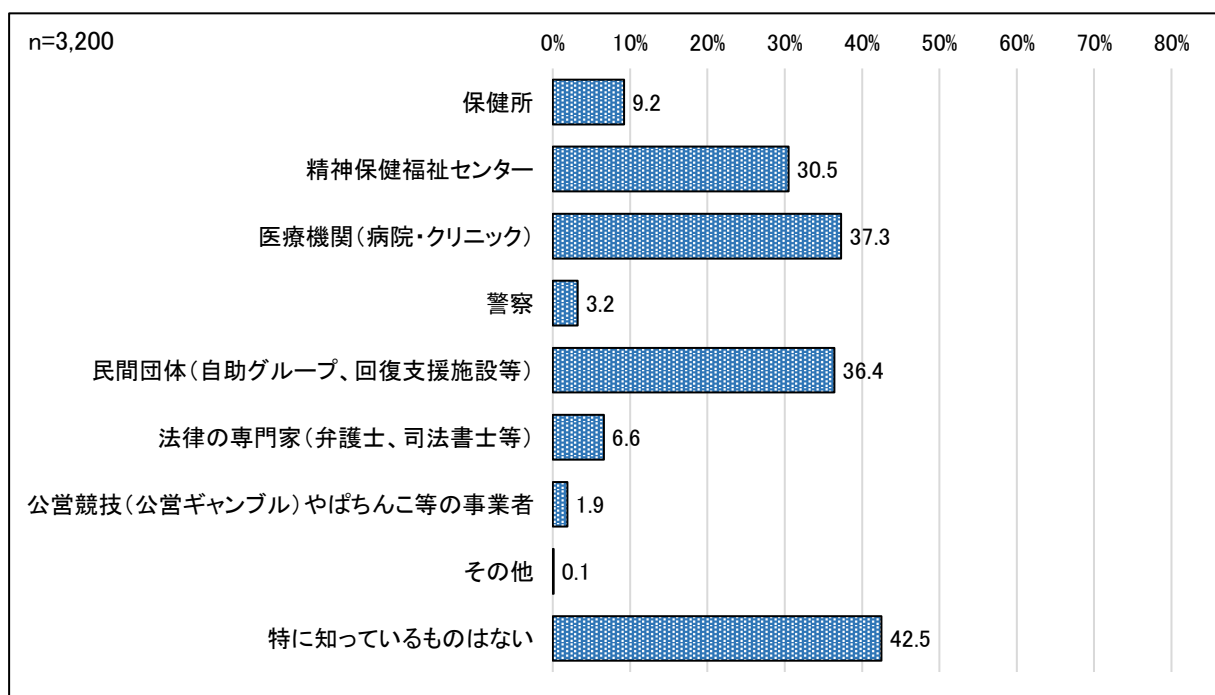


(7) 知っている支援機関・治療機関

Q10 ギャンブル等依存症の支援や治療等を行う機関として知っているものを次の中から3つまで選んでください。

ギャンブル等依存症の支援や治療等を行う機関として知っているものは、「医療機関（病院・クリニック）」が37.3%と最も高く、次いで「民間団体（自助グループ、回復支援施設等）」が36.4%、「精神保健福祉センター」が30.5%であった。また、「特に知っているものはない」は42.5%であった。

図表10. 知っている支援機関・治療機関（複数回答／3つまで）



<その他の回答（抜粋）>

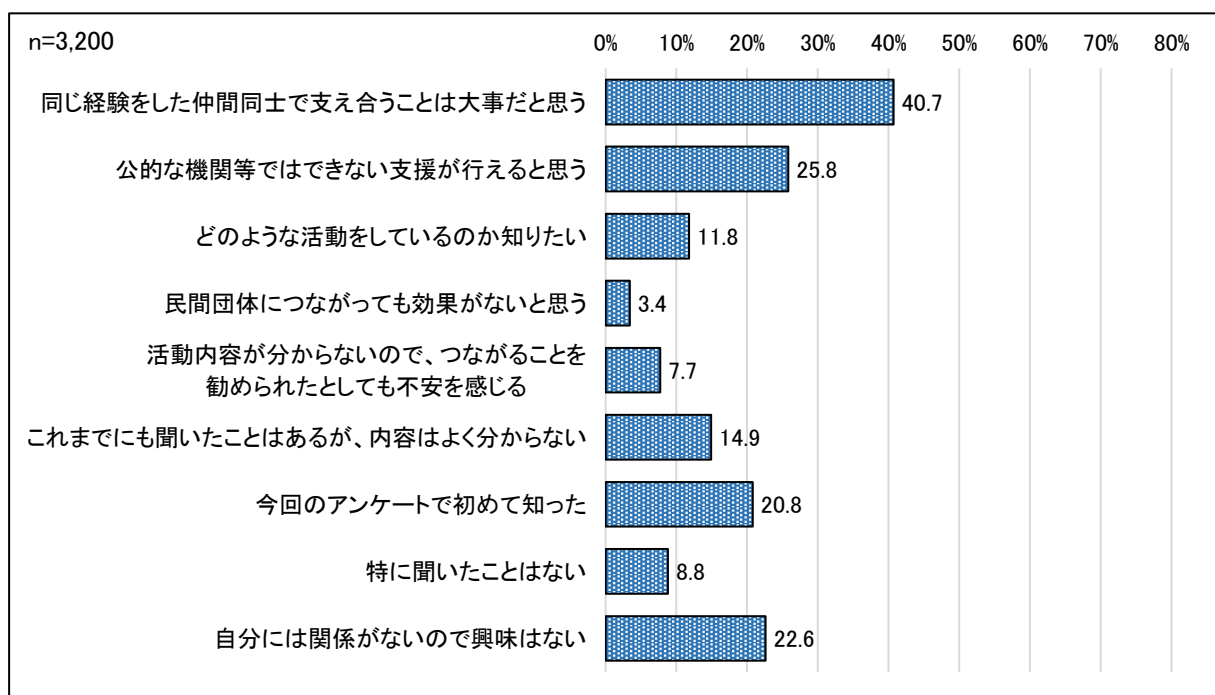
- ・ カウンセリング
- ・ ぱちんこ屋に貼ってある「ひとりで悩まないで」に相談。
- ・ 精神科や心療内科が適切な施設を紹介してくれる。

(8) 民間団体についての考え

Q 1 1 民間団体について、あなたの考えに近いものを次の中から選んでください。(いくつでも)

民間団体についての考えは、「同じ経験をした仲間同士で支え合うことは大事だと思う」が40.7%と最も高く、次いで「公的な機関等ではできない支援が行えると思う」が25.8%であった。また、「自分には関係がないので興味はない」は22.6%、「今回のアンケートで初めて知った」は20.8%であった。

図表11. 民間団体についての考え (複数回答)

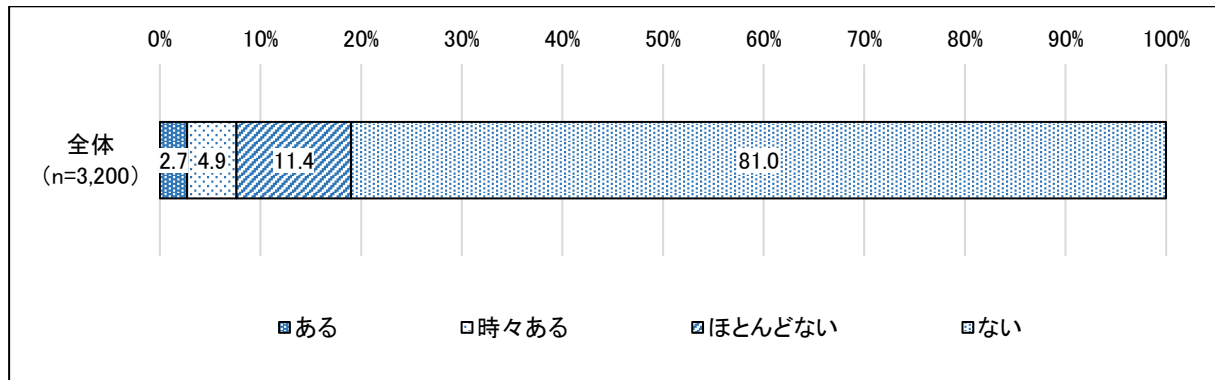


(9) 自分がギャンブル等依存症ではないかと思った経験の有無

Q 1 2 自分がギャンブル等依存症ではないかと思ったことはありますか。

自分がギャンブル等依存症ではないかと思ったことは、「ある」が 2.7%、「時々ある」が 4.9%、「ほとんどない」が 11.4%、「ない」が 81.0%であった。

図表12. 自分がギャンブル等依存症ではないかと思った経験の有無

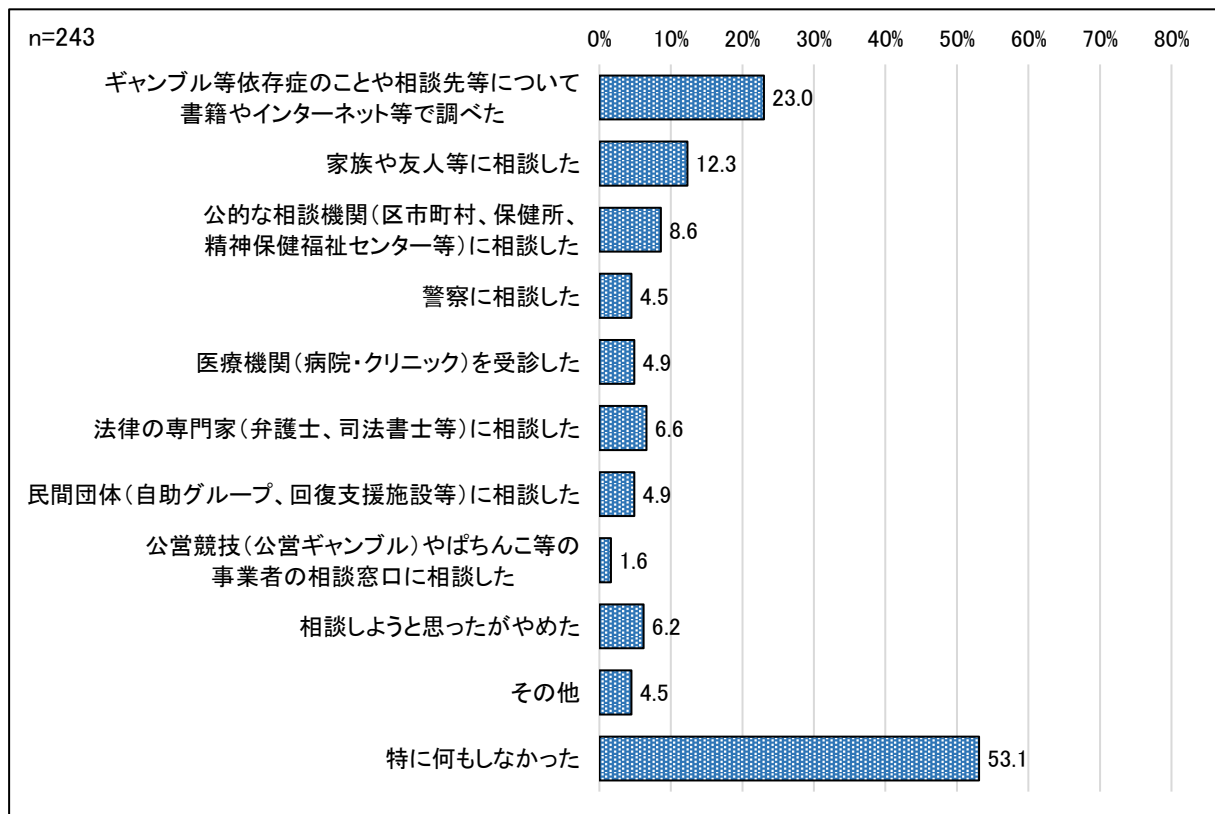


(10) 自分がギャンブル等依存症ではないかと思った際の対応

Q13 (Q12で自分がギャンブル等依存症ではないかと思ったことがある人のみ)
そのことで、どのような対応をとりましたか。次の中から3つまで選んでください。

自分がギャンブル等依存症ではないかと思った際にとった対応は、「ギャンブル等依存症のことや相談先等について書籍やインターネット等で調べた」が23.0%と最も高く、次いで「家族や友人等に相談した」が12.3%であった。また、「特に何もしなかった」は53.1%であった。

図表13. 自分がギャンブル等依存症ではないかと思った際の対応 (複数回答/3つまで)



<その他の回答(抜粋)>

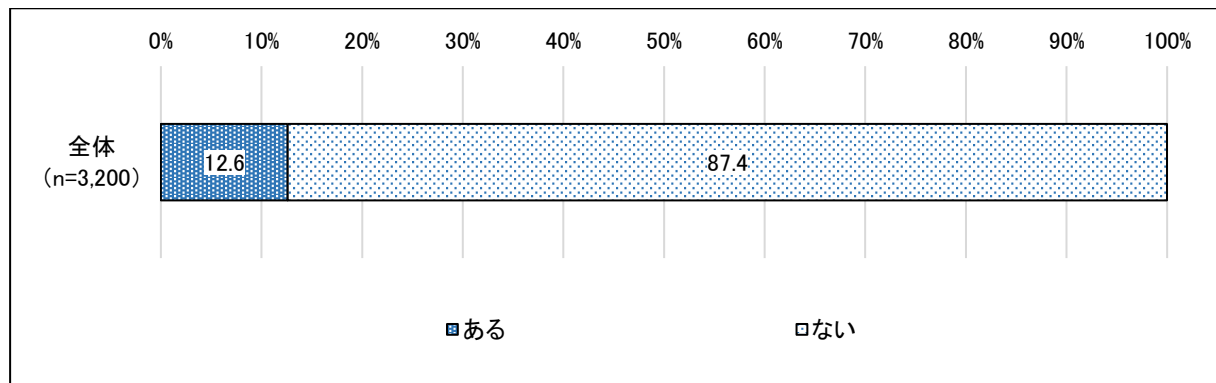
- ・過去に依存症だった人が立ち上げたブログを閲覧していた。
- ・別の趣味に集中できるように心がけた。
- ・生活環境が変わりやめられた。
- ・ギャンブルを全てやめた。
- ・気付いた時にはもう遅く借金返済ができなくなってしまった。自己破産の手続きをした。

(11) 身近な人がギャンブル等依存症ではないかと思った経験の有無

Q 1 4 家族や友人等の身近な人がギャンブル等依存症ではないかと思ったことはありますか。

身近な人がギャンブル等依存症ではないかと思ったことは、「ある」が 12.6%、「ない」が 87.4%であった。

図表14. 身近な人がギャンブル等依存症ではないかと思った経験の有無

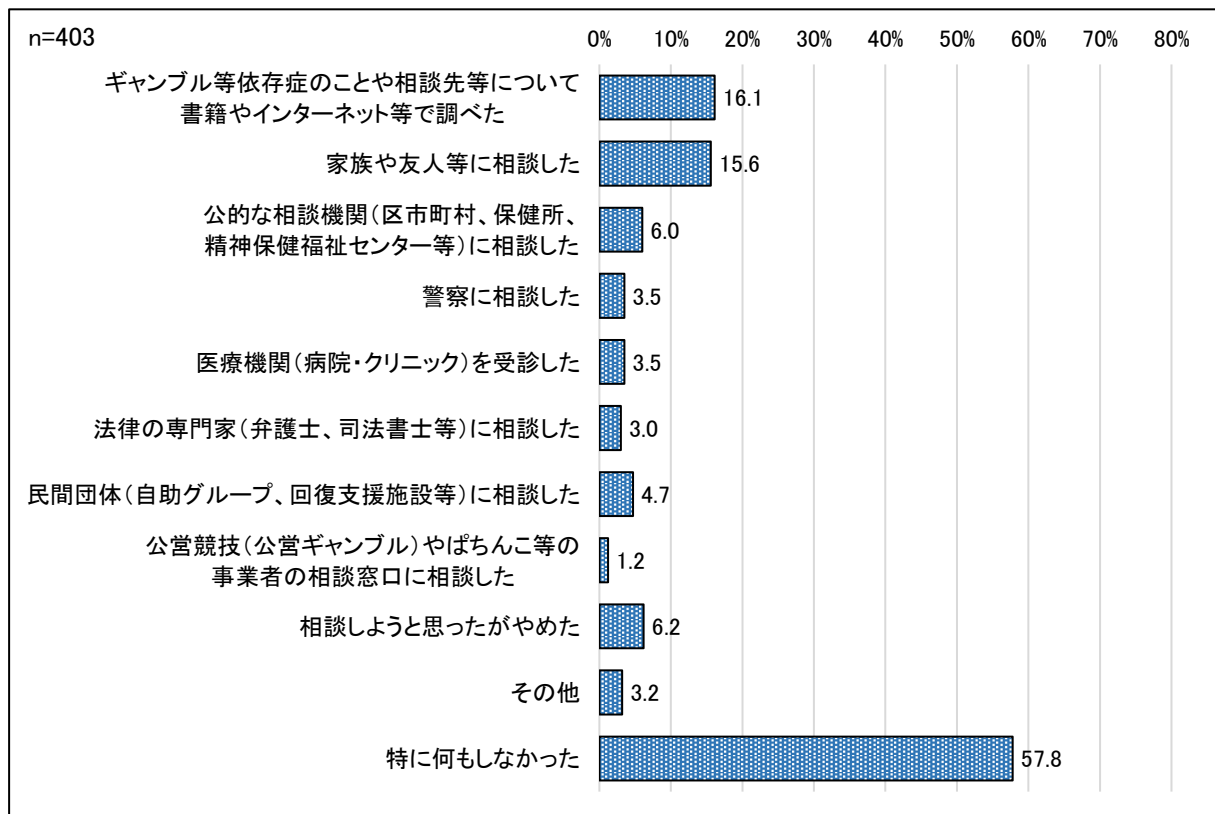


(12) 身近な人がギャンブル等依存症ではないかと思った際の対応

Q15 (Q14で身近な人がギャンブル等依存症ではないかと思ったことがある人のみ)
そのことで、どのような対応をとりましたか。次の中から3つまで選んでください。

身近な人がギャンブル等依存症ではないかと思った際にとった対応は、「ギャンブル等依存症のことや相談先等について書籍やインターネット等で調べた」が16.1%と最も高く、次いで「家族や友人等に相談した」が15.6%であった。また、「特に何もしなかった」は57.8%であった。

図表15. 身近な人がギャンブル等依存症ではないかと思った際の対応 (複数回答/3つまで)



<その他の回答(抜粋)>

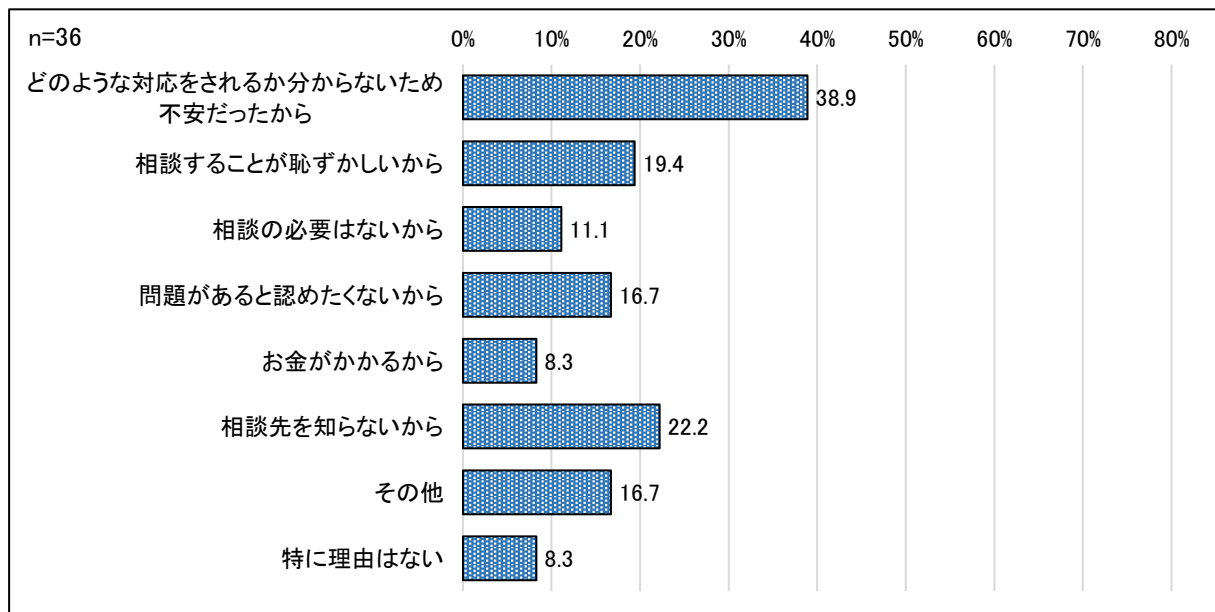
- ・離婚した。
- ・距離を置いた。
- ・小遣いを減らした。
- ・カウンセリング
- ・借金返済のために生活上の節約を徹底するようにした。
- ・叱った。
- ・借金の肩代わりをさせられた。

(13) 相談しなかった理由

Q16 ご自身又はご家族等のギャンブル等依存症（又はその疑い）について、「相談しようと思ったがやめた」と回答した方にうかがいます。相談しなかった理由を次の中から選んでください。（いくつでも）

ご自身又はご家族等のギャンブル等依存症について相談しなかった理由は、「どのような対応をされるか分からないため不安だったから」が38.9%と最も高く、次いで「相談先を知らないから」が22.2%、「相談することが恥ずかしいから」が19.4%であった。

図表16. 相談しなかった理由（複数回答）



<その他の回答（抜粋）>

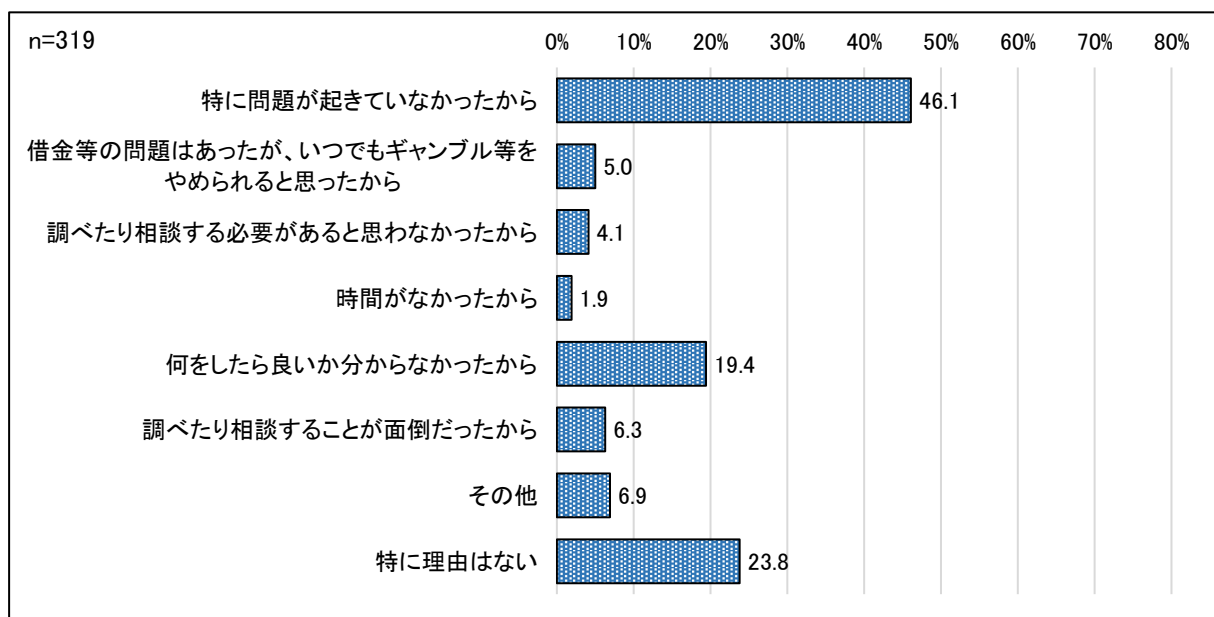
- ・本人が嫌がる、認めないから。
- ・本人が変わろうという意識を持たない限り、周囲がどんなに頑張っても気持ちが届かないと思ったから。
- ・離れて暮らしていたのでそこまで踏み込めなかった。
- ・相手の性格を知っているから。
- ・心配をかけたくないから。

(14) 何もしなかった理由

Q17 ご自身又はご家族等がギャンブル等依存症ではないかと思ったものの「特に何もしなかった」と回答した方にうかがいます。何もしなかった理由を次の中から選んでください。(いくつでも)

ご自身又はご家族等がギャンブル等依存症ではないかと思ったものの何もしなかった理由は、「特に問題が起きていなかったから」が46.1%と最も高く、次いで「何をしたら良いか分からなかったから」が19.4%であった。また、「特に理由はない」は23.8%であった。

図表17. 何もしなかった理由 (複数回答)



<その他の回答 (抜粋)>

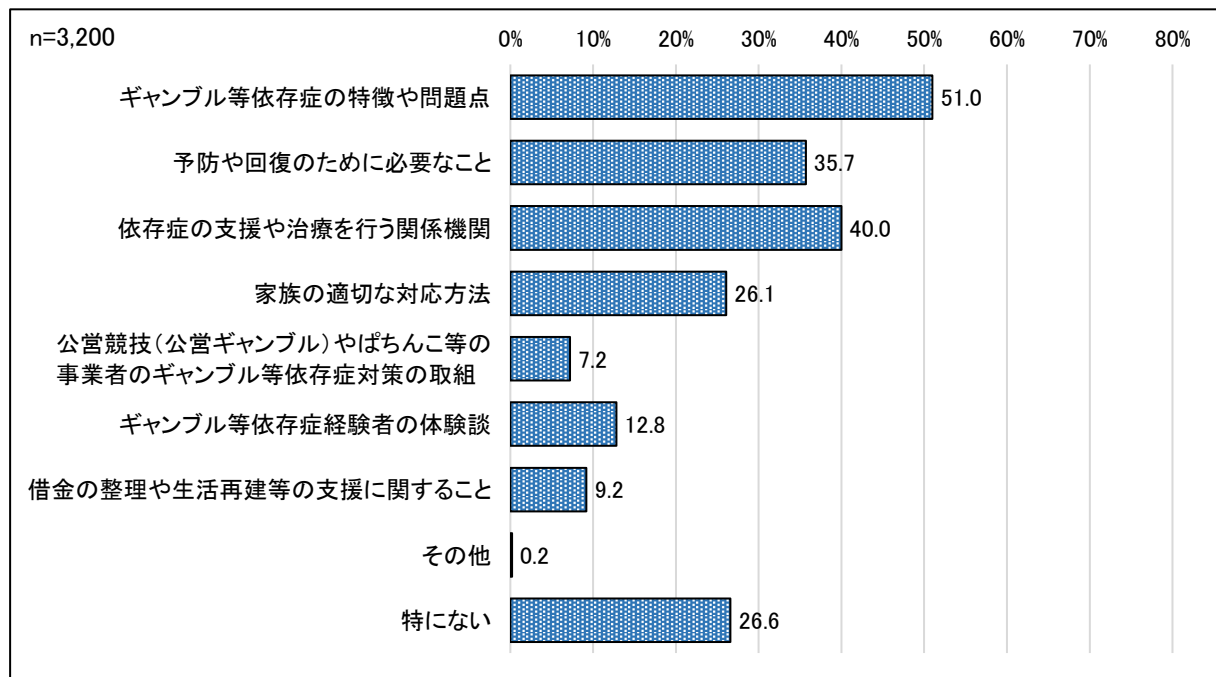
- ・当時、自分はまだ子供だったから対処法を知らなかった。
- ・自分にはどうすることもできないから。
- ・依存症ではないと、信じたいから。
- ・他人に知られたくなかったから。
- ・本人の問題だから。
- ・無駄だと思った。

(15) 知っておくと良いと思うもの

Q18 ギャンブル等依存症を理解するために知っておくと良いと思うものを次の中から3つまで選んでください。

ギャンブル等依存症を理解するために知っておくと良いと思うものは、「ギャンブル等依存症の特徴や問題点」が51.0%と最も高く、次いで「依存症の支援や治療を行う関係機関」が40.0%、「予防や回復のために必要なこと」が35.7%であった。

図表18. 知っておくと良いと思うもの（複数回答/3つまで）



<その他の回答(抜粋)>

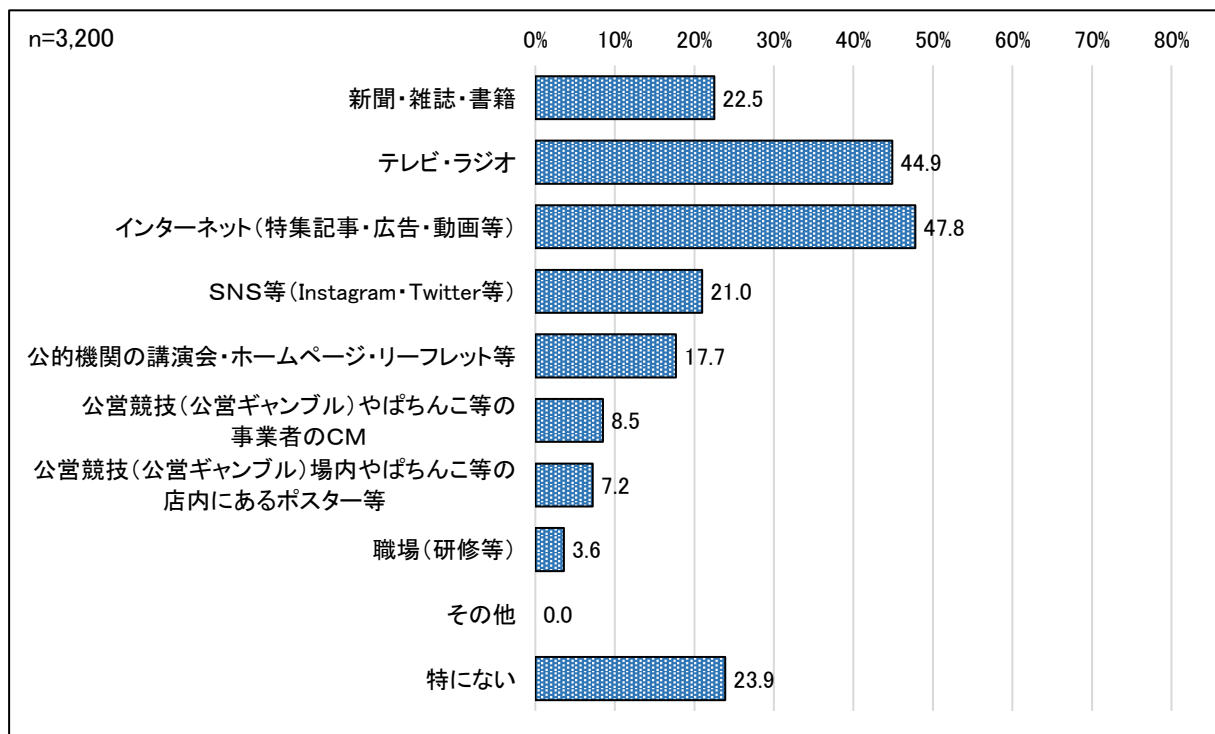
- ・ギャンブル等依存症になってしまう脳のメカニズム。
- ・一般人はギャンブルで勝ち越すことなどあり得ないということ。
- ・実際に経験しなければ本当に理解することはできないと思う。

(16) 情報を受け取りやすい媒体

Q19 ギャンブル等依存症の情報について、どのような媒体等だと情報を受け取りやすいか次の中から3つまで選んでください。

ギャンブル等依存症の情報を受け取りやすい媒体は、「インターネット（特集記事・広告・動画等）」が47.8%と最も高く、次いで「テレビ・ラジオ」が44.9%、「新聞・雑誌・書籍」が22.5%であった。

図表19. 情報を受け取りやすい媒体（複数回答／3つまで）



<その他の回答（抜粋）>

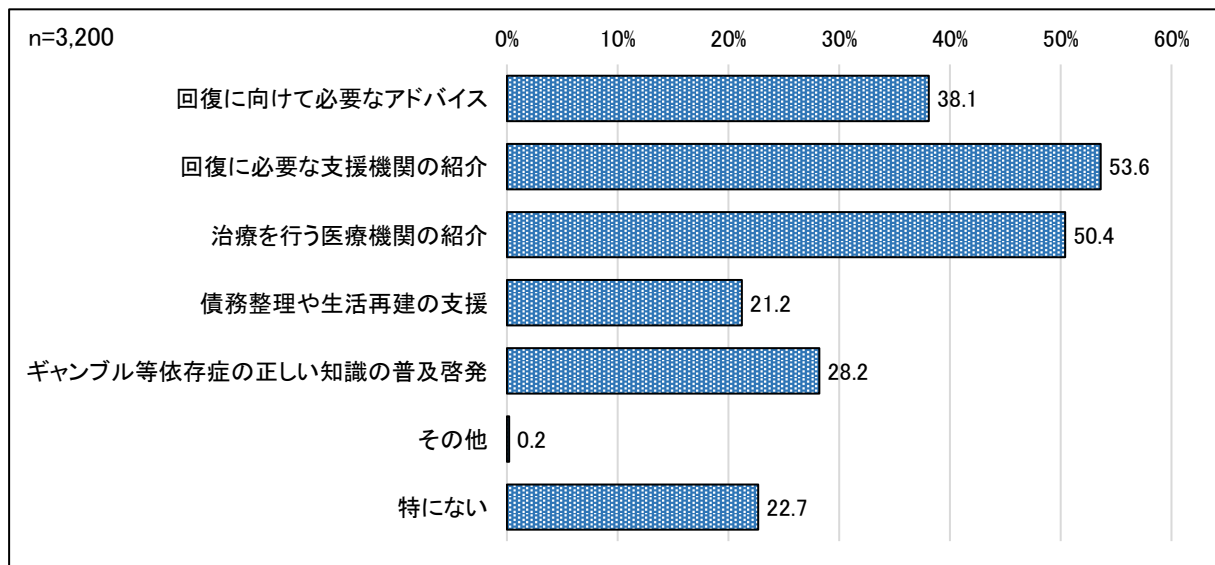
- ・学校での講話。

(17) 必要だと思う取組

Q20 行政におけるギャンブル等依存症の方や家族等への支援として、必要だと思う取組を次の中から3つまで選んでください。

ギャンブル等依存症の方や家族等への支援として必要だと思う取組は、「回復に必要な支援機関の紹介」が53.6%と最も高く、次いで「治療を行う医療機関の紹介」が50.4%、「回復に向けて必要なアドバイス」が38.1%であった。

図表20. 必要だと思う取組（複数回答/3つまで）



<その他の回答（抜粋）>

- ・ギャンブルを運営する公的機関が責任を持って対応すべき。
- ・行政のギャンブル等による収入を禁止する。
- ・ギャンブルそのものを禁止する。